

2020 年度 第一四半期 決算説明会 質疑応答要約

Q) 下期にかけて、数字上はプリンティングの回復を見ていないように思えるが、SOHO については経済活動がある程度戻れば、今の下期の計画よりも上振れる可能性はあるのではないか？

A) SOHO、SMB とともにロックダウンによるオフィスの閉鎖が解除されたことで、今後は印刷需要も増えてくと思う。在宅勤務、在宅教育による需要は Q1 が一番強く、上期いっぱいその勢いは続くとみているが、下期は需要が一巡するとみている。

インク消耗品の供給制約は Q2 まで、本体に関しては年度いっぱい影響が残る見通し。SOHO 向けでもインクは供給制約の影響が残る。レーザーについては、足元含めて在宅勤務・在宅教育による需要が強いため工場に増産を指示しており、機会損失を出さないような体制を取っている。

Q) LBP について。ブラザーは SOHO が強みなため、リモートワークによる PV への影響は軽微であるという認識をしていた。足元のプリントボリュームがダウンしてしまっている背景を教えてください。

A) SOHO 向けのプリンターで印字される枚数に対して、SMB 向けの機種で印字される枚数がかかなり大きいことが損益の悪化に響いている。残念ながら SMB 商材のプリントボリュームの落ちからくる消耗品の落ち込みを、SOHO 本体の伸びでカバーするまでには至らない。

一番事業環境が悪化した 4 月に比較して、プリントボリュームはもどってきている。通期では約 9 割の水準までプリントボリュームならびに消耗品の需要はもどってくるのではないかと考えている。今後の SMB のプリントボリュームがどう推移するのかによって、業績が変わっていくと思う。

Q) フィリピンのロックダウンがまた始まるようだが、影響はどうか？ 代替地生産などを行うのか？

A) 昨日 (8/3) の段階で、フィリピン政府が規制強化をするという発表があった。フィリピン工場場所は今回の規制対象の外であるので、直接の操業に与える影響があるわけではない。規制強化の該当地域内に取引先もあるため、今後、取引先の操業度が落ちるなどの影響が出てくる可能性はある。

代替案については、日本や中国で一部のインクの消耗品を生産している。今後このようなリスクが出てくる可能性も起こりうるため、消耗品の代替生産のボリュームを上げていく予定。

Q) カラオケについて、Q1 は非常に厳しい状況だったが、Q2 以降の今の計画は楽観的に見える。前提としてリスクをどのように見ているのか？

A) 現在公表した計画は、一定の回復前提を置いたものとなっている。日々感染拡大の状況は変わるので、感染の広がりにより、下振れリスクはあると思っている。不採算店舗については基準をもうけて閉店を行っていくなど、コスト削減にも取り組んでいく。

以上